

教科	商業	学科	商業科	学年	2	年	
科目	ソフトウェア活用			単位数	3	単位	
使用教科書	実教 商業「情報ソフトウェア活用」			副教材	なし		

学校教育目標	高い志を立て、自己を練磨し、社会に貢献する人間の育成(立志・練磨)									
育成を目指す 資質・能力	基盤的学力	◎	協働力		論理的思考力	◎	傾聴力		課題解決能力	○
	表現力	○	判断力	○	考察力	◎	情報活用能力	○	コミュニケーション能力	
	基礎的読解力		創造力		洞察力		継続力		行動力	
	自己管理能力		共感力		自己実現力		復元力(折れない心)		自己肯定感	
学習の到達目標	・商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。									
	・商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。									

★評価規準	A: 十分満足できる	B: 概ね満足できる(基準)	C: 努力を要する
★単元ごとの評価規準			
①知識・技能		②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。		企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
★何で評価するか		★何で評価するか	★何で評価するか
・定期考査 ・小テスト ・課題学習		・定期考査 ・小テスト ・課題学習	・定期考査 ・小テスト ・課題学習

【学習計画】

月	単元	学習の目標(評価の観点: 評価方法)
4	1章 企業活動とソフトウェア活用 1節 ビジネスにおけるソフトウェアの活用 2節 ビジネスにおけるソフトウェアの進化	・ソフトウェアの意義と重要性について考え、理解することができたか。 ・ネット通信ビジネスにおける情報通信システムに関心を持ち、各種決済システムなどの、ソフトウェアの意義や役割を考え、理解することができたか。 ・ソフトウェアとビジネスや社会課題との関連について自ら学び、適切に活用し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
5	2章 情報通信ネットワークの活用 1節 情報通信ネットワークの導入と運用 2節 情報資産の保護	・ネットワーク機器の機能や情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について理解し、コンピュータやプリンタを適切にLANやインターネットに接続するための基礎的な方法や、情報通信ネットワークのシステム障害に対処するための基本的な技術について理解している。 ・情報資産を保護するため、ソフトウェアの脆弱性への対応や、無停電電源装置の活用などのリスクを適切に管理する方法について理解し、情報を共有するためのファイルとフォルダのアクセス権の設定や、暗号化の種類、データのバックアップなどについての基本的な技術について理解している。
6	3章 表計算ソフトウェアの活用 1節 表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析 2節 表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズ・リサーチ	・表計算ソフトウェアを通して、オペレーションズ・リサーチの基礎について理解し、目的に応じて適切な手法を活用する技術を身に付けるとともに、適切に表現し、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。

★単元ごとの評価規準			★7月上旬～9月下旬までの学習内容		
①知識・技能		②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度		
企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。		企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
★何で評価するか		★何で評価するか	★何で評価するか		
・定期考査 ・小テスト ・課題学習		・定期考査 ・小テスト ・課題学習	・定期考査 ・小テスト ・課題学習		
7	3節 手続きの自動化		・マクロの記録機能を用いた、手続きの自動化について理解し、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。		

自己評価			実際評価		
観点			観点		
①	②	③	①	②	③

8	4章 データベースソフトウェアの活用 1節 ビジネスとデータベース	・データベースに関心を持ち、効果的な活用方法や役割などを説明できる思考が身に付いている。
9	2節 データベースの作成と操作	・データベースの演習に主体的な姿勢で取り組み、テーブル・クエリ・フォーム・レポート・リレーションシップの作成など、データベースソフトウェアの実践的活用のための知識と技術が身に付いている。

★単元ごとの評価規準			★10月上旬～3月下旬までの学習内容			自己評価			実際評価		
①知識・技能			②思考・判断・表現			③主体的に学習に取り組む態度			観点		
企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。			企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。			企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組もうとしている。			観点		
★何で評価するか			★何で評価するか			★何で評価するか			①	②	③
・定期考査 ・小テスト ・課題学習			・定期考査 ・小テスト ・課題学習			・定期考査 ・小テスト ・課題学習					
10	3節 手続きの自動化 4節 データベースの構造 5節 SQLの操作	・ユーザーフォームにボタンを配置し、これまで作成したクエリやフォーム、レポートを呼び出すマクロに関する知識と技術が身に付いている。 ・SQLの演習について自発的に取り組み、SQLの文法を理解し、データベースを適切に操作する技術が身に付いている。									
11	5章 業務処理用ソフトウェア 1節 グループウェアの活用 2節 販売管理ソフトウェアの活用	・グループウェアに関する知識、技術を身に付け、企業活動の改善に対する業務の効率的な処理について、組織の一員としての役割を果たすため、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。									
12	3節 給与計算ソフトウェアの活用	・給与計算ソフトウェアに関する知識、技術を身に付け、企業活動の改善に対する業務の効率的な処理について、組織の一員としての役割を果たすため、主体的かつ協働的に取り組むことができたか。									
1	6章 情報システムの開発 1節 システム開発の基礎	・表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアによる情報システムの開発において、どのモデルで開発を進めるかを、主体的に考え、思考することができるか。									
2	2節 アルゴリズムの基礎	・アルゴリズムの各種基礎的な考え方を理解しているか。									
3	総合演習	・企業活動が抱える課題を現状分析し、表計算ソフトウェア、あるいはデータベースソフトウェアのプログラミング機能を利用して、主体的かつ協働的に取り組み、その技術を身に付けているか。									

★最終評価総括(自己評価／実際評価)						自己評価総括			実際評価総括		
①知識・技能		②思考・判断・表現		③主体的に学習に取り組む態度		①	②	③	①	②	③
◎前期振り返り				◎後期振り返り				▶備考			